

# 住民の健康 ―丁で支援

前橋市総社町の第六中学校区内の住民を対象に始まった。健康に興味を持つ人たちの輪が、口コミで徐々に周辺にも広がっている。

## 前橋でZANO

インターネットを効果的に活用し、高齢者に自身の健康チェックをしてもらいながら、病気予防をしてもらおうという取り組みが、

## ネットで多言語問診票

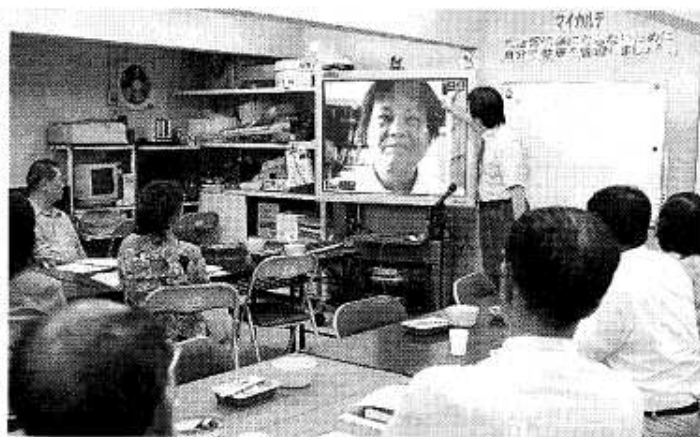
### 医師が講師

毎週火曜日の屋下がり。空き施設を使った勉強会に、近所から十数人が集まる。NPO法人「地域診療情報連携協議会」が開く予防医学教室だ。お弁当が準備され、会費は200円程度。

「ここは将来の『在宅テレケア』を体験したり、医師を講師に招き、病気予防のアドバイスを受けたりする。皆でテレビ電話の画面



瀧澤清美さん



東京都の医師とテレビ電話で会話。終始和やかなムードで声を掛け合う＝前橋市総社町で

を見つめ、画面の向こうにいる東京都の医師に「こんにちは。そちらの天気はどうですか？」など会話しあう。常連さんは慣れたもので、「午前中は忙しかったですが」「高血圧に効く漢方薬は？」と、もの怖る。「脳卒中」だった。

「おかしいな、と思った。発症3時間以内に適切な処置をすれば、悪くはなりませんよ」と説明を受け、「3時間とはいつからか。」「自分でおかしい」と自覚症状があるんですか？」など質問が相次いだ。70代の女性は「難しいときもあるけれど、毎回、教室に通い続けることが健康を気遣うことになりそうではないんです」と語る。

### 健康日記も

協議会がいま、力を注いだ「多言語問診票」は、紙では先発商品があるが、インターネット上で誰でも入手可能なものは例がないといひ、利用者拡大に期待を込める。問診票の監修をしている酒巻教授は「NPO法人だから、色々な挑戦ができる。システムが、どうやって市民や病院の信頼を得ていくかが課題です」と話している。

「おかしいな、と思った。発症3時間以内に適切な処置をすれば、悪くはなりませんよ」と説明を受け、「3時間とはいつからか。」「自分でおかしい」と自覚症状があるんですか？」など質問が相次いだ。70代の女性は「難しいときもあるけれど、毎回、教室に通い続けることが健康を気遣うことになりそうではないんです」と語る。

個人情報の扱いに注意した。病院は敷居が高くてデータ入力・管理を代行する。フランス旅行をした仲間「外国語版もあったら便利だね」の一言をヒントに、夏からは外国語を使った問診票の開発も始め、現段階で9カ国語とローマ字読みがそろっている。地域で暮らす外国人が、医師の前でも的確に症状を伝えられ、困らずに診療を受けられる、と見込む。

協議会によると、こう